

大井町線の開扉事故(2006年3月発生)に関する調査結果を受けて

東京急行電鉄株式会社

2006年3月11日に大井町線で発生した、列車走行中の客室乗降用扉の開扉事故につきまして、本日、国土交通省航空・鉄道事故調査委員会から調査結果が発表されました。東京急行電鉄(本社:東京都渋谷区、社長:越村敏昭)では、事故発生直後から自主的に再発防止のための安全対策を講じてきましたが、このたびの調査結果を受けて、あらためてこれらの安全対策の有効性を確認いたしました。

このような事故を起こしたことにつきまして、あらためて深くお詫び申し上げます。今後も引き続き、より一層の安全運行に努めてまいります。

事故原因

車両の扉を開閉する電気回路の一部がショートしたことによるものです。

これまでに実施してきた安全対策

- ・ 事故翌日の2006年3月12日始発までに全車両を緊急点検し、事故車両以外の車両の電気回路には異常がないことを確認しました。
- ・ 事故車両と同様の電気回路になっているすべての車両を「万一、電気回路がショートした場合でも扉が開かない構造」に改修しました。改修作業は事故発生直後から順次実施し、2007年6月に全車完了しております。
- ・ 同様のドアの不具合が駅で停車中に発生した場合も、ただちに運行を中止するよう、運転取り扱いのマニュアルを整備しました。

以 上